

歴史を学ぶ。個性を知る。

大阪工業大学読本

OSAKA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

2026年度



表紙絵(大阪中之島の風景): 大阪市の中心を流れる堂島川と土佐堀川に挟まれた中之島には、大正期から大阪市中央公会堂をはじめ図書館・美術館などの文化施設、大阪市役所や日本銀行大阪支店など行政・金融の中心をなす施設が立ち並んでいる。本学園の起源となる関西工学専修学校の初代校長・理事長の片岡安は、大阪市中央公会堂の実施設計、日本銀行大阪支店の建設に携わるなど、発展期の大阪において先駆的な役割を果たした人物である。

大阪工業大学読本
発行日: 2026(令和8)年4月1日
発行: 学校法人常翔学園
常翔歴史館
<https://www.josho.ac.jp/ayumi/>

 学校法人常翔学園

「学長からのメッセージ」



伝統ある大阪工業大学の学生として

本冊子には大阪工業大学の歴史がまとめられています。新入生の皆さんは、さまざまな想いを持って本学に入学されたことでしょうか。しかし、本学がどのような経緯で設立され、現在に至っているかを思い浮かべたことがある人は少ないのではないのでしょうか。

本学は、1949年に新制大学としての歴史を刻み始めました。そのルーツは1922年に開校した関西工学専修学校で、2022年には学園創立100周年を迎えました。当時は、わが国の近代化・工業化の流れの中で、大阪も周辺地域を含め大都市へと変貌しようとしていました。都市基盤整備を支える技術者の絶対数が不足するという状況の中、時代・社会・地域の要請に応える形で実践的技術者を育成することを目的に同校は開校されました。本冊子を読んでいただくと、創設者たちの使命と情熱（「建学の精神」に反映されています）が伝わってくると思います。

さて、本学は開学以降、時代の要請や変化に対応すべく、継続的な発展を遂げてきました。本冊子を読んでいただくと、その変革の様子がよく分かります。しかし、忘れてはならないのは、どの時代においても、本学の「建学の精神」を遺伝子として持つ多くの卒業生が、私たちの生活を支えるさまざまな分野で活躍することで、社会からの評価を積み上げてきたということです。

自校史を知ることは、皆さんが本学に入学した目的を再確認することにつながるるとともに、将来のキャリアをデザインする際の道標にもなります。皆さんも先人たちと同様の遺伝子を持つ大阪工業大学生として、誇りと自覚を持って、充実した学生生活を送ってください。

学長 井上 晋

Contents

建学の精神	03
創設時の社会背景	05
大学の歴史	07
特集コラム①片岡 安と大阪近代建築史	15
特集コラム②校地の移転と都市開発史	17
ここにしかないもの	31
大阪工業大学のシンボルについて	39
学部・学科／ 大学院研究科・専攻（2025年度）	40

大阪工業大学 1949年開学

歴代学長と在任期間

氏名	在任期間	氏名	在任期間	氏名	在任期間
初代 野田清一郎	1949年 4月 1日～ 1957年12月 1日	6代 青井 忠正	1973年10月28日～ 1981年10月27日	11代 井上 正崇	2007年10月28日～ 2015年10月31日
2代 加藤 信義	1957年12月 2日～ 1959年 4月 1日	7代 佐藤 次彦	1981年10月28日～ 1987年11月19日	12代 西村 泰志	2015年11月 1日～ 2019年10月31日
3代 宮北 敏夫	1959年10月 5日～ 1963年10月11日	8代 伊藤 富雄	1987年11月20日～ 1993年10月27日	13代 益山 新樹	2019年11月 1日～ 2021年10月31日
4代 佐々 憲三	1963年10月12日～ 1969年 8月21日	9代 櫻井 良文	1993年10月28日～ 1999年10月31日	14代 井上 晋	2021年11月 1日～ 現在
5代 川原 琢磨	1972年 4月 8日～ 1973年10月27日	10代 西川 禎一	1999年11月 1日～ 2007年10月27日		

※学長事務取扱者は除く

世のため、人のため、地域のため、
理論に裏付けられた実践的技術を持ち、
現場で活躍できる
専門職業人を育成する。



本庄京三郎 (ほんじょう きょうざぶろう)

設立者・校主
1868年岡山県生まれ。1891年東京法学院(現 中央大学)卒業。日本有数の高級住宅地として知られる西宮市甲陽園の開発をはじめ多くの企業経営に携わるなど、新しい街づくりを進めた実業家でした。



片岡 安 (かたおか やすし)

初代校長・理事長
1876年石川県生まれ。1897年東京帝国大学工科大学(現 東京大学)卒業。大阪市中央公会堂をはじめ、数多くの建築設計に関わる。日本建築協会、大阪工業会理事長、京都帝国大学講師などを勤めた都市計画のバイオニアでした。



本学を設置する学校法人常翔学園の歴史は、1922(大正11)年、「関西工学専修学校」として幕を開けた。明治維新を契機にわが国は近代化・工業化に向けて大きく飛躍し、大阪も周辺地域を含め大都市へと変貌を遂げた。急速な都市化は繁栄をもたらす反面、都市基盤整備を支える技術者が不足し、これに対応できる技術者の育成が求められた。時代の要請、社会や地域の要請に応え、世の中に貢献できる人材を育成すること…。創設者たちの使命と情熱がひとつの学校の開校に向けて大きな原動力となった。一世紀前に掲げた建学の精神は、滔々と流れゆく大河のように時代とともに教える者、教わる者の思いとして受け継がれていく。

学園の沿革は「常翔学園ウェブサイト」からもご覧いただくことができます。

<https://www.josho.ac.jp>



1922年、関西工学専修学校は 専門技術の修得を志す多くの者に門戸を開いた

関西工学専修学校の開校を当時の新聞は次のように紹介した。「現代の要求する中堅的専門技術家を養成する目的を以て篤学の志を懐いて家庭の事情のため犠牲に余儀なくされている者のために関西工学専修学校を設立し…。同校の開校は、まさに「より高度な専門知識を学びたい」と願う人たちに分け隔てなく門戸を開くことが目的であり、官公庁や大学の第一線で活躍する専門家の協力により授業を行うという姿勢は、建学の精神そのものであったといえる。



常翔学園について

1922(大正11)年9月7日、時の大阪府知事 池松時和氏から設置認可を受け創設した関西工学専修学校がそもそもの始まりである。1926(大正15)年には、同校を設置運営する組織として「財団法人関西工学」を設立。その後、法令改正等による改組や名称変更を経て、2008(平成20)年に「学校法人常翔学園」と改称。「常翔」とは「常に天翔けるもの」の意である。

現在では、大阪工業大学・大学院、摂南大学・大学院、広島国際大学・大学院、常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園中学校・高等学校の3大学、2高校、2中学校を設置する総合学園へと成長を遂げ、約2万6千人の学生・生徒が学んでおり、延べ約33万人の卒業生が社会の各分野で活躍している。

■学園章

1986(昭和61)年制定。自然界に多大の富を与え続ける太陽のフォルムをマークに生かすことにより、叡智を与え続けるあたたかみのある学園を表現。またラインは河の水面、永遠に流れ続ける河をイメージし、停滞しない将来のより勝れた学問の進歩を表現している。



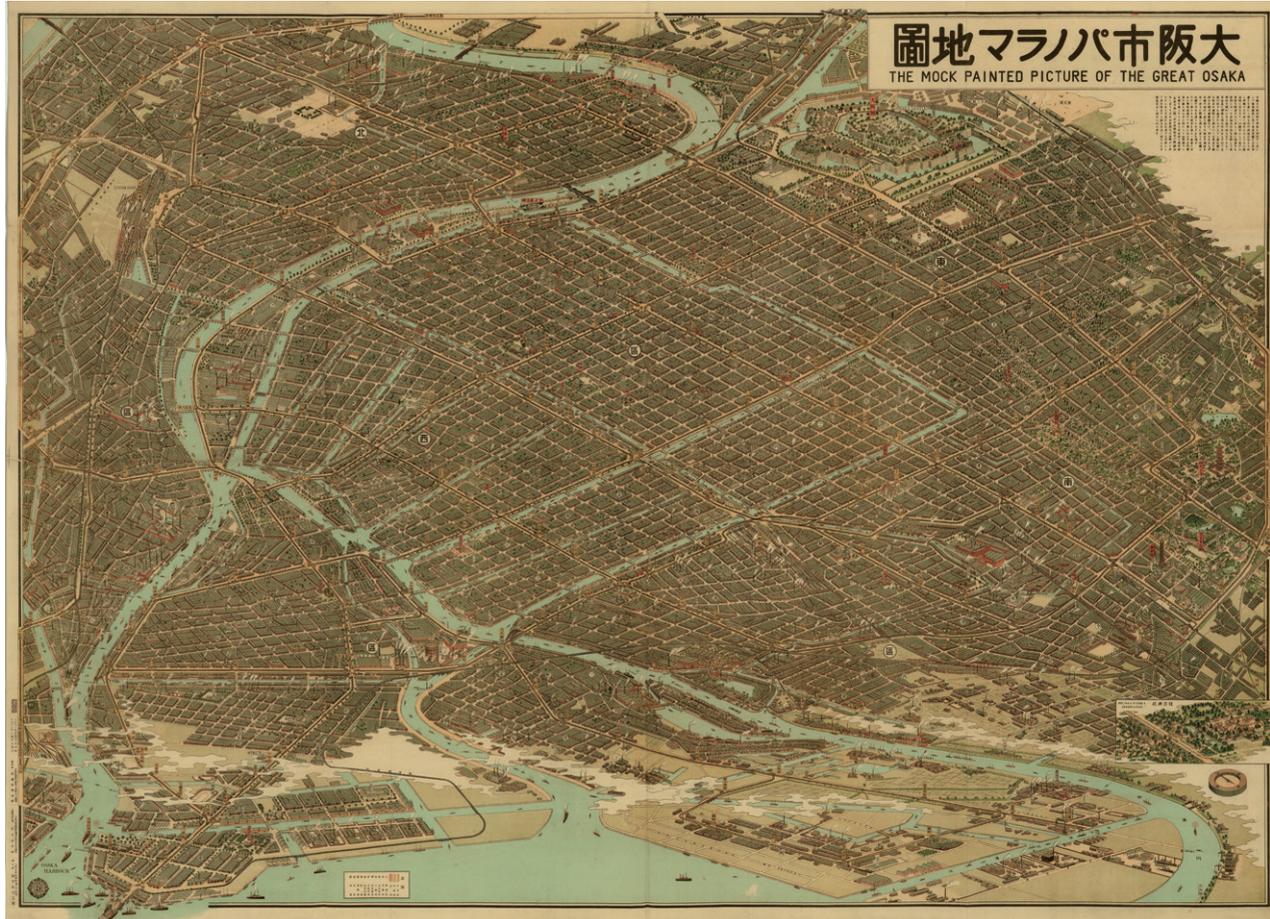
■学園カラー

2012(平成24)年、学校法人常翔学園を表す色彩(法人カラー)を青藍(せいらん)に制定。青藍は、鮮やかな藍(あい)色で、「青は藍より出でて藍よりも青し」の故事に基づき、学園全体の躍進と進化の象徴を表現している。



■学園の沿革

- 1922(大正11)年 関西工学専修学校を創設
- 1926(大正15)年 財団法人関西工学を設立
- 1933(昭和8)年 関西工業学校を開設
《後に現在の常翔学園高等学校に発展》
- 1940(昭和15)年 関西高等工業学校を開設
《後に現在の大阪工業大学に発展》
- 1947(昭和22)年 法人名を財団法人 摂南学園と改称
- 1948(昭和23)年 摂南学園高等学校を開設
- 1949(昭和24)年 摂南工業大学を開設
法人名を財団法人大阪工業大学と改称
摂南工業大学を大阪工業大学と改称
- 1950(昭和25)年 摂南学園高等学校を大阪工業大学高等学校と改称
- 1951(昭和26)年 法人を学校法人大阪工業大学に改組
- 1975(昭和50)年 摂南大学を開設
- 1987(昭和62)年 法人名を学校法人大阪工大摂南大学と改称
- 1998(平成10)年 広島国際大学を開設
- 2007(平成19)年 学校法人啓光学園(啓光学園中学校[1957(昭和32)年開設]、啓光学園高等学校[1960(昭和35)年開設])と連携協定締結
同法人の名称を学校法人常翔啓光学園と改称
- 2008(平成20)年 法人名を学校法人常翔学園と改称
大阪工業大学高等学校を常翔学園高等学校と改称
啓光学園中学校・高等学校を常翔啓光学園中学校・高等学校と改称
- 2011(平成23)年 常翔学園中学校を開設
- 2013(平成25)年 学校法人常翔啓光学園と法人合併
- 2022(令和4)年 学園創立100周年を迎える



出典：「大阪市パノラマ地図」（国際日本文化研究センター所蔵）、作成主体又は絵師：美濃部政治郎（大阪、著作者）
 版本者：日下伊兵衛（大阪、印刷兼発行者）、日下わらぢ屋（大阪、発行所）

1925年、大阪市は東京市を抜いて日本一の大都市になり、「大大阪」は東洋一、世界でも第6位に入る商工業都市（産業都市）としての地位を得た。

時は大正、およそ100年前の大阪市はそれまでに築いてきた商工業都市としての基盤に加え、市域の大幅な拡張にともない人口でも経済規模においても東京市を凌駕し、日本で最も繁栄する都市へと急速に発展した。学園が産声を上げたのはまさにこうした時代であった。

急速な発展により、産業を支え、あるいは都市としての基盤整備を担う技術者が絶対的に不足。

工場ではものづくりの組織を指揮するとともに自らものづくりを実践でき、あるいは建設工事では設計から現場での監督までをこなせる技術者の不足は、近代的産業都市としての発展にとっては致命的な問題であり、その解決が当時喫緊の課題であった。

時代は技術者育成を急がせた

産業の近代化と都市基盤整備は並行して進めなければならない。したがって、これらを実践できる技術者育成は急を要したが、既存の高等教育機関あるいは中等教育機関だけでは不足していた。その中で、新たなしかも確かな技術者育成組織として名乗りを上げたのが「関西工学専修学校」であった。その建学の精神は、すでに職工などとして働きながらも技術者を目指す若者に対し、夜間の限られた時間であっても可能な限り高度な技術を学ぶ機会を提供したことに現れている。



煙の街とまでいわれた当時の大阪市街の様子、煙突からの煙が幾筋も見える。（写真：大阪歴史博物館提供）

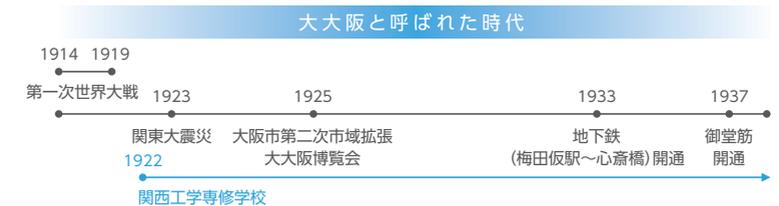


大阪駅前。市電が走り大都市への変貌ぶりが窺える。
 出典：「目でみる大正時代（下）」国書刊行会編



橋や御堂筋などの幹線道路といった都市インフラの整備が急ピッチで進む。（写真：大阪歴史博物館提供）

「関西工学専修学校」の開校とその時代背景



時代と地域の要請に応え、中堅技術者育成を目的に開校した「関西工学専修学校」は着実にその役目を果たし、多数の卒業生が地域で活躍し始めた。それを受け技術者教育を看板としたさまざまな学校を併設する技術系総合学園として展開し、やがて高等教育をも担うまでに発展した。その結果、大阪市に留まらず日本全体の技術者育成へ大いに貢献することとなった。

大阪工業大学の軌跡

～大阪工業大学の誕生、戦後の学制改革による新教育制度「6・3・3・4」制のスタート～

1947年から1949年にかけて、新しい教育基本法と学校教育法に基づき、学園設置の各学校は、新制中学、新制高校、新制大学へ移行、開設していく。その中で、摂南工業専門学校(昼間課程、土木科、建築科、電気科、機械科、電気通信科)は、新制高等学校に移行するか、新制大学に昇格するか二者択一を迫られていた。戦災による校舎の消失、実験・実習設備や図書の復旧など多くの課題を抱えていたが、学園の将来発展を期し万難を排しての大学昇格を1949年に果たす。摂南工業大学として4月に開設、設置課程は工学部第I部(昼間課程)・工学部第II部(夜間課程)に土木工学科・建築工学科・電気工学科の3学科を設置。入学定員は各学科80名であった。10月に大阪工業大学に改称する。(P19参照)

1949年5月10日、摂南工業大学の入学式が挙行された。第1期生として、工学部第I部生105人、工学部第II部生76人が入学宣誓を行った。その3年後、1952年3月28日、大阪工業大学第1期生として、第I・II部合わせ、158人が卒業、社会に巣立った。この年の10月に学園創立30周年を迎える。

なお、摂南工業専門学校の前身である関西高等工業学校は、1940年に文部省から設置認可を受けており、これが本学のルーツとなる。当時、大阪周辺で高等工業教育を行う学校は、大阪帝国大学(現大阪大学)工学部と、開設間もない大阪高等工業学校(現大阪府立大学)の2校しかなかった。(P14参照)



1949年4月
「摂南工業大学開学」
1949年10月
「大阪工業大学に改称」
大阪工業大学の前身である摂南工業大学が開学。同年、現在の校名に改称。



1960年頃の大宮キャンパス。左から1号館、本館(その後側に6号館)、2号館、3号館。大学のキャンパスの右側に高校校舎が2棟。

関西工学園創立20周年記念 関西高等工業学校創立1周年記念

記念式典は、1941年6月に挙行された。この半年後の12月に太平洋戦争が勃発。



～工学部～戦後の高度経済成長を支え、21世紀型技術イノベーションの創出に応える工学教育。

1940年
1941年

関西高等工業学校を設置。
関西工学園創立20周年記念(関西高等工業学校創立1周年記念)

1949年

大学開設。工学部第I部、工学部第II部に、土木工学科(2002年に都市デザイン工学科に改称)、建築工学科、電気工学科(2002年に電気電子システム工学科に改称)を設置。

学園の基礎を築く片岡安は建築、都市計画の大家であり、また経済界の重鎮であった。創設期の講師陣はその人脈の流れを汲む。工業教育の本流として今も伝統を受け継ぐ。開設時は旧1号館にあったが、現在の建物が竣工するとともに4号館、5号館に移転する。

1950年

工学部第I・II部機械工学科を増設。
1960年代、1970年代前半の高度経済成長期の企業の設備投資や生産の自動化、電化製品、自動車等の家庭への普及に応える工業技術者を養成する。機械技術は、近年、ロボット、医療・福祉機器など幅広い産業分野にまたがる。

1958年

工学部第I部応用化学科を増設。1960年には工学部第II部応用化学科を増設。
1950年代の後半から、化学工業、特に石油化学工業の発展が見られ、化学系技術者養成に対する社会的ニーズに応えるものであった。

1959年

工学部第I部電子工学科(2019年に電子情報システム工学科に改称)を増設。
エレクトロニクス時代を予見し、先駆的に開設する。摂南工業専門学校に電気通信科を設置していたこともあり、他の新制大学よりも通信工学部門が充実していたことが開設の遠因でもある。

1962年
1965年

工学部第I・II部工業経営学科(2010年度から学生募集を停止)、工学部第II部に電子工学科を増設。大学院を開設。工学研究科(土木工学専攻・建築学専攻・機械工学専攻・電気工学専攻・応用化学専攻)修士課程を設置。1967年には工学研究科(工業経営学専攻)修士課程、工学研究科(土木工学専攻・建築学専攻・機械工学専攻・電気工学専攻)博士課程を増設。1977年には工学研究科(応用化学専攻)博士課程を増設。

2000年
2006年

昼夜間講義制を導入(2006年廃止)、工学部第II部夜間課程の学生募集を停止。
工学部に環境工学科、空間デザイン工学科、生体医工学科(2010年度から学生募集を停止)を増設。
自然との共生、様々な環境保全、資源循環など環境負荷低減型技術やシステム構築への社会的ニーズに応える。また、住空間、公共空間、建築空間などのデザインを通して、豊かな生活環境を開発・創出する技術者を養成することで社会的ニーズに応える。

2007年
2010年

工学研究科に環境工学専攻、生体医工学専攻博士課程を増設。
工学部にロボット工学科、生命工学科を増設。
未来のロボットを創造するだけでなく、メカトロニクス(メカニクスとエレクトロニクスの合成語)技術を修得した技術者の養成により産業界のニーズに応える。また、医工学系に生命科学系を加えて、人工臓器などの医療機器の開発技術者の養成や食品・化粧品業界の開発技術者を養成し、産業界のニーズに応える。

2017年

工学研究科に空間デザイン学専攻博士課程を増設。
工学研究科を建築・都市デザイン工学専攻、電気電子・機械工学専攻、化学・環境・生命工学専攻博士課程に再編。

2025年

工学部生命工学科に臨床工学技士養成コースを新設。

■各学科の学びの特色等

学科	学びの特色	学びのキーワード
都市デザイン工学科	安全・快適な「まちづくり」を実現する。	デザイン・計画/構造/コンクリート・材料/地盤/河川・海岸
建築学科	安全性と機能性に優れた美しい「建物」をつくる。	建築設計・計画/建築環境工学・設備/構造力学・建築一般構造/建築材料・生産
機械工学科	革新的な技術を生み出して社会を便利にする。	材料・機械力学/熱・流体/設計・製作
電気電子システム工学科	電気電子を使った次世代の機器や製品をつくる。	エネルギー科学/電機システム/半導体エレクトロニクス/通信デバイス/システム科学
電子情報システム工学科	電子・情報・通信・システムの学びから超スマート社会へ貢献する。	電子・フォトリソ/通信/情報/システム
応用化学科	化学とものづくりを結んで毎日を便利で快適にする。	合成化学/機能有機化学/高分子材料化学/無機材料化学/物質生命化学/認識化学
環境工学科	持続可能な地球と未来の世代を守る。	資源循環/エネルギー/都市代謝/環境インフラ/自然共生
生命工学科	生物の知見と工学技術で医療・食品を通じて人々を健康にする。	遺伝子工学/機能性食品学/生物情報工学/人工臓器/生命計測工学/バイオマテリアル/臨床工学

■大学院工学研究科(博士前期・後期課程)の特色

専攻	学びの特色
建築・都市デザイン工学専攻	「歴史・意匠」、「デザイン・計画」、「環境」、「河海・地盤」および「構造・材料」の5分野とその融合を担保する「専門横断」を設置する教育課程を編成。
電気電子・機械工学専攻	「エレクトロニクス・情報」、「電機・制御」および「機械工学」の専門分野に加えて融合的科目「専門横断」で編成した有機的なカリキュラムを構成。
化学・環境・生命工学専攻	「物質・材料分野」および「環境ソリューション分野」、「生命・医学・食品分野」を設置し、さらに基盤技術を幅広く学ぶため「専門横断」を置く。

工学部

詳細は本学公式WEBサイトをご覧ください
URL : <https://www.oit.ac.jp/academic/eng/index.html>



～情報科学部～21世紀の高度情報社会を担う
有為な人材の育成が開設の趣旨である。

1996年

2番目の学部として情報科学部を設置し、情報処理工学(2002年に情報科学部に、2007年にコンピュータ科学部に、2019年に情報知能学科に改称)と情報システム学科を開設した。

2000年
2002年
2007年

大学院情報科学研究科修士課程を開設。

情報メディア学科を増設。

情報ネットワーク学科を増設(2019年にネットワークデザイン学科に改称、2025年度から学生募集を停止)。

2021年
2025年

データサイエンス学科を増設。

実世界情報学科を増設。

高度情報化時代においては単にソフト開発等の専門知識を有するだけではなく、ソフト・ハード両面での課題を具体的に解決し、実用的に応用できる情報技術者の育成が必要であった。そうした社会的要請を受け、1996年に情報科学部を開設した。さらに、より高度で先進的な情報処理技術の研究・開発や運用を担う技術者を養成するために大学院情報科学研究科を開設した。

2021年、世界に先駆けた超スマート社会 Society5.0 の実現を担う人材育成を目指す「データサイエンス学科」を増設した。さらに、2025年にIoTなどで得られた情報をもとにドローン・ロボットなどの機器を制御して課題の解決を目指す「実世界情報学科」を新設した。

情報科学部の5学科は密に連携し、産官学協働のもとに、社会課題やビジネス課題の解決・新たな価値創造を担う人材を育成する実践的教育を目指している。この実践的な教育・研究を推進するために、大規模実証実験施設「DXフィールド」を新たに設置した。

■各学科・大学院の特色

データサイエンス学科

情報技術を基盤においたAI・データサイエンスの実践的な教育を通じて、価値創造マインドやマネジメント力、コミュニケーション力を兼ね備えた「データサイエンスのプロフェッショナル」を育成する。

情報システム学科

コンピュータアーキテクチャの知識に基づき、ソフトウェア、プログラミング、データベース、セキュリティを中心に学び、システムエンジニアに求められる「情報システムの提案・設計・開発・運用管理を行う力」を身につける。

実世界情報学科

ヒト・モノ・環境の実世界の今のデータを集めて蓄積し、それをAIで認識・分析し、ドローン・ロボットを含む実世界の機器を制御するプログラミングによって、現実世界の問題を解決する力を身に付けます。

情報メディア学科

単に情報システムを設計開発する知識だけではなく、使いやすく、直感的にわかりやすい、言葉、画像、音、体感を駆使した表現力の高い情報システムを開発できる人材を育成する。

情報知能学科

ITエンジニアに求められるプログラミング技術はもちろん、人工知能の開発・活用方法や、知能を組み込む対象となる機器(ハードウェア)やシステムについてもバランスよく学ぶことで先端IT人材を育成する。

大学院情報科学研究科 博士前期・後期課程

情報技術を基盤として社会や企業活動の変革を実現するために、創造的な能力に富み、国際的に通用する情報プロフェッショナルおよび、情報科学分野の第一線で活躍できる優れた研究者、ならびに高度専門職業人の育成を目標とする。

情報科学部

詳細は本学公式WEBサイトをご覧ください
URL : <https://www.oit.ac.jp/academic/is/index.html>



～知的財産学部・大学院～

知的創造サイクルを駆動し、イノベーションを創出する人材の育成

2003年
2005年
2017年
2024年

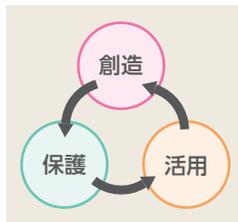
国内初・唯一の知的財産学部(知的財産学科)を設置。
 専門職大学院知的財産研究科を開設。
 学部3コース制導入([知財プロフェッショナルコース][ブランド&デザインコース][ビジネスマネジメントコース])。
 学部にコンテンツビジネスコースを新設。

21世紀における持続的な経済成長と産業発展をリードするのはイノベーションによる新技術やデザインなどの創出とそれに関わる知的財産の保護・活用である。この知的財産の保護・活用に必要な専門知識と経験を有する人材を育成するために、知的財産学部と専門職大学院知的財産研究科を開設した。

■学部・大学院開設の経緯

知的創造サイクルの推進

イノベーションを持続的に創出する基盤は、知的財産の保護と活用にある。すなわち、新たな技術やデザインを「創造」し、知的財産権として「保護」し、事業で「活用」して得た利益を次の創造に再投資する循環、いわゆる「知的創造サイクル」である。このサイクルを社会で駆動させる専門人材の育成が、本学部設立の根幹をなす理念である。



新しい産業社会の構築

労働人口の減少や新興国の台頭といった構造変化に直面する我が国において、イノベーションの創出は持続的発展のための至上命題である。そのためには、従来の文系・理系といった学問領域の枠を超え、技術とデザイン、法律と経営などを横断的に理解し、企業家精神をもって新たな価値を創造できる人材が社会から強く求められている。



プロパテント時代への対応

1980年代以降、米国が知的財産権の保護強化政策(プロパテント政策)によって経済的復興を遂げたように、知財戦略は国家の競争力を左右する要素となった。こうした世界の潮流の中で、我が国においても2003年に知的財産基本法が施行された。この国家戦略を実質的に推進するためには、国際感覚を備えた知財専門人材の育成が喫緊の課題であった。



地元自治体・企業からの要請

高い技術力を有する中小企業が集積する「ものづくりの街」大阪もまた、国際化や情報化といった産業構造の変化という課題に直面している。この状況を打破し、地域産業の競争力を再強化するため、核となる知的財産専門人材の育成拠点が、地元自治体や産業界から強く望まれていた。こうした期待に応えることも、本学部が担う重要な使命である。



～ロボティクス&デザイン工学部～

エンジニアリングとデザインを融合した新しい学びを通して未来のものづくりと社会の発展を支える人材を育成する。

2017年

ロボティクス&デザイン工学部を増設し、工学部から移設のロボット工学科、空間デザイン学科に加えて、新たにシステムデザイン工学科を開設。大学院ロボティクス&デザイン工学研究科博士課程を増設。

AIやIoT技術により、自動車や携帯電話、家電製品など身の回りでロボット化が進んでおり、今後も加速度的に技術革新が進む。このような未来社会で、新たな日本のものづくりを切り拓きリーダーを育成するためにロボティクス&デザイン工学部を開設した。工学とデザイン思考をベースに、人々の豊かな暮らしを実現し、新しい価値を創造する技術者の輩出を目指す。

■各学科・大学院の特色

ロボット工学科～理論と実践を通して、課題を解決できるロボット技術者へ～

目まぐるしく変化する社会の中で、生産、物流、医療福祉、店舗運営におけるロボットの重要性はますます高まっている。時々刻々と変化するニーズに応える多様なロボットシステムを直ちに生み出し、課題解決に立ち向かい最後までやり抜く技術者を育成する。機械工学、電気電子工学、計測・制御工学、情報工学の理論を学び講義と手を動かして実践するものづくりを通して、知識とスキルを兼ね備えたロボットエンジニア育成教育を展開する。

システムデザイン工学科～技術力と創造力を融合したAI、IoT時代の新学科～

ユーザに寄り添い、人とロボットをつなぐ統合的なシステムがデザインできる人材を育成する。情報工学、電気・電子工学、機械工学を基盤に、演習や実験を通じて「デザイン思考」を深く修得する。その上で、ウェアラブル機器や生活アシスト機器などのイノベーションをめざした研究に取り組む。

空間デザイン学科～空間デザイン、プロダクトデザインなど幅広い領域で活躍～

テクノロジーと文化の両面から、建築デザイン、インテリアデザイン、プロダクト・情報デザインの専門的なデザイン領域を中心に、新たなデザインを提案・創出できる人材を育成する。「人」と「もの」との関係を深く考え、工学的思考とデザインの基礎的能力を育む徹底したものづくり教育を行う。そして企業や地域と連携し、リアルな課題に取り組む実践的デザイントレーニングを特徴とした教育・研究を行う。

大学院ロボティクス&デザイン工学研究科 ロボティクス&デザイン工学専攻(博士前期・後期課程)

製品・サービスに付加価値を与えユーザーエクスペリエンス(UX)デザイン等の視点を持つ人材の育成を目指す。企業や地域、地方自治体と連携し、社会人と共に学び合うことでキャリアデザインを描く機会を設けているほか、人間中心設計に基づいたデザイン思考をはじめとしたイノベーション教育を取り入れている。

知的財産学部

詳細は本学公式WEBサイトをご覧ください
 URL : <https://www.oit.ac.jp/academic/ip/index.html>



知的財産研究科

詳細は本学公式WEBサイトをご覧ください
 URL : https://www.oit.ac.jp/academic/graduate_ip/index.html



ロボティクス&デザイン工学部

詳細は本学公式WEBサイトをご覧ください
 URL : <https://www.oit.ac.jp/academic/rd/index.html>



大学設立前史(1922~1949)

それは民間による高等教育のひろがり
本格的工学教育の幕開けを告げた瞬間であった。

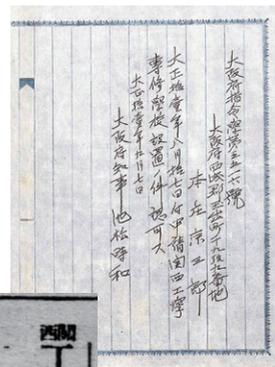
1922年 (大正11年)

短期間での人材育成を目指した

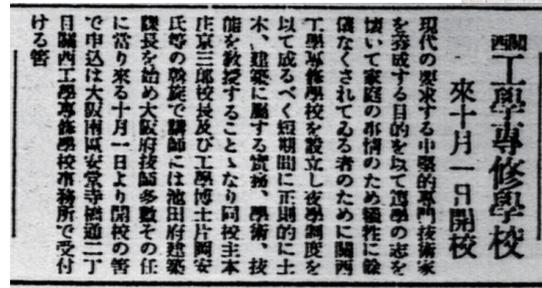
関西工学専修学校

急速に近代化・工業化する時代と地域の要請を受け、1922年(大正11年)に開校した。当時掲載された新聞記事にあるように、「勉強したいと希望しても、経済的理由で断念せざるを得ない多数の若者に夜学を開校することによって学問の機会を提供し、1年という短期間で専門技術者を養成する。」という崇高な理念があった。

9月7日付の大阪府知事名による設置認可書。



9月1日付で大阪毎日新聞に生徒募集広告が掲載された。



8月31日、大阪毎日新聞に「関西工学専修学校」開校、および生徒募集を報じる記事が掲載された。記事そのものはそれほど大きくはなかったが世間の注目を集め入学希望者が殺到した。

1940年 (昭和15年)

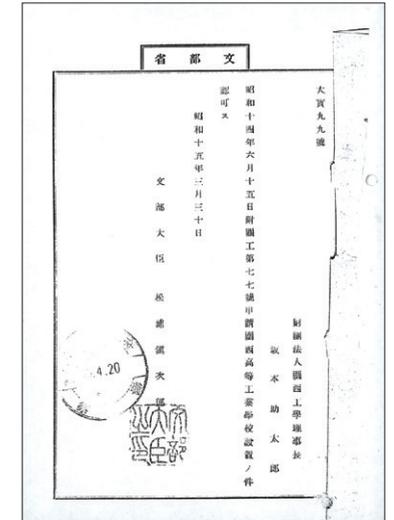
専門職業人育成のための

関西高等工業学校

学園は西日本初の私立高等工業学校である「関西高等工業学校」を設置した。「関西工学専修学校」が短期養成に主眼を置いたのに対し、「関西高等工業学校」は旧制中学校卒業を入学資格とし3年間しっかりと専門技術を習得するための授業を行った。この「関西高等工業学校」を基にすることで、戦後の学制改革に際して新制大学への昇格を果たすこととなった。



当時の城北(現大宮)校地



3月30日付の関西高等工業学校の文部大臣名による設置認可書

大正から昭和へ。学生たちは激動の時代の中、さまざまな夢を胸に『工業技術の習得』に励んだ。



関西工学専修学校の生徒たち

関西高等工業学校
第1回入学式



関西高等
工業学校
校旗



摂南高等工業学校の学生たち



摂南工業専門門学校卒業記念碑
(大宮キャンパス)

1942~49年「摂南」を冠した時代

摂南高等工業学校

摂南工業専門学校

摂南工業大学

大阪工業大学へ

～前身である関西高等工業学校から、

大阪工業大学へ発展するはざまに刻まれた「もうひとつの歴史」～

本学のルーツである関西高等工業学校は、1942年(昭和17年)に「摂南高等工業学校」へ校名を変更した。そこから大阪工業大学へと移りゆく間の7年間は「摂南」を冠した時代であった。摂南高等工業学校は、法令の改正にともない「摂南工業専門学校」への改称を行った。その後、学制改革の実行にともない新制「摂南工業大学」へ昇格を果たした。さらに、大学昇格後約半年で「大阪工業大学」への改称が行われた(その経緯についてはP19参照)。

華やかなりし大阪に片岡 安が残した足跡はまさに大阪の近代建築史そのものであった。



【大阪市中央公会堂】

大阪・中之島の中央公会堂。ルネッサンス・バロックの様式を基調とした片岡が実施設計した建物は、日本の近代建築史上重要なものとして2002年に重要文化財指定を受けている。

写真：大阪歴史博物館提供

【片岡安メモリアルゲート】

大学正門に学園創立70周年事業として建てられた片岡安メモリアルゲートは、この中央公会堂正面のイメージを盛り込んでつくられた。



【旧大阪市庁】

1921年(大正10年)、中之島に建設された。塔屋までの高さ約56mは当時大阪市内最高の高さだったといわれる。1982年(昭和57年)に新庁舎建設のため取り壊されるまでは「大阪市の象徴」と呼ばれていた。

写真：上諸尚美氏



【旧大阪毎日新聞本社】

1922年(大正11年)、大阪・堂島に建設された大阪毎日新聞本社も片岡の設計。御影石を使った玄関口をはじめ、どっしりとした重厚さを感じさせる。

写真：上諸尚美氏

現在、毎日新聞社は移転したが堂島アバンザ前の跡地に当時の正面玄関部が移設され当時の佇いを感じることができるといわれる。



【日本銀行大阪支店】

1903年(明治36年)竣工。大阪の大動脈となった御堂筋に面して建設された。日本銀行に在職当時、のちの中央公会堂でもコンビを組んだ辰野金吾と建設に携わった。現在も残る日本の名建築のひとつとして名高い。

写真：上諸尚美氏

【拡幅後の御堂筋】

1930年(昭和5年)、御堂筋の拡幅工事がスタート。当時、土木・建築の行政に関わる仕事に携わっていた片岡も尽力したといわれる。

写真：大阪歴史博物館提供



日本を代表する建築家・実業家が大阪で技術者育成の礎を築くべく尽力した。

片岡 安(1876~1946)

明治・大正・昭和に大阪を中心に活躍した日本を代表する建築家。上記の大阪近代建築作品以外では「第三十四銀行本店」「芦屋仏教会館」「仁和寺霊宝館」などの代表作がある。彼は建築界での活躍のみならず、大阪商工会議所第13代会頭など財界や教育界でもさまざまな役職を務めながら社会の諸問題や工業教育に取り組んだ。

大阪都市計画の関わりと学園創設。

大阪市内における近代建築の設計をこれだけ多く手がけた片岡は、その一方で、著書「現代都市之研究」を上梓し、「都市計画の科学的考察」と題する論文で工学博士号を取得するなど、都市計画の権威として知られる存在であった。このような実績から、日本の都市計画の起こりともいえるべき大阪市の「都市計画調査会」による答申作成に加わった。したがって1920年(大正9年)7月に発足した「都市計画大阪地方委員会」委員として大大阪へ向けた大阪の都市基盤整備に尽力したのは必然といえる。加えて、永らく社団法人大阪工業会理事長を務め、大阪の製造業の発展を支えた。このような経歴から技術者教育の重要性をいち早く認識し、多様な人脈を駆使して学園の創設に邁進した。



「関西工学専修学校」開学以降、時を同じくして大阪市域が拡大し、人口も増大するとともに、交通網が発達したことを受け、校地の移転を図るとともに設備の拡充を行った。

立地① 1922年 発祥の地

[大阪府西成郡豊崎町本庄 (現 大阪市北区本庄東)]
 大阪市の中心部・梅田にほど近い豊崎は興隆の礎を築いた「学園発祥の地」。



関西工学専修学校の生徒たち

小学校を仮校舎としたため、設備の問題等を理由に移転へ。

立地② 1923年 樋之口校地

[大阪市北区樋之口町 (現 大阪市北区国分寺)]
 仮校舎だった豊崎から南東へ900m。はじめての独立校舎として建築された。



樋之口校舎の教室内部

樋之口校舎の正門と校舎

関東大震災の影響などもあり、生徒数大幅増員への対応のため移転へ。

立地③ 1926年 南方校地

[大阪市東淀川区南方町 (現 大阪市淀川区西中島)]
 鉄道の発展と大阪北部の都市開発の拡大が生んだ「淀川右岸」の新拠点。



南方校舎 (1933年頃)

関西工業学校の弱電実験

さらなる拡張・増築の必要性が高まり将来、大学等設立を視野に入れて新たに校舎建設へ。

立地④ 1936年 城北校地 (現大宮校地)

[大阪市東淀川区豊里町 (現 大阪市旭区大宮ほか)]
 ふたたび淀川左岸の東部エリアへ。都心の広がりにあわせた大学の本拠地。



城北校地に完成した鉄筋校舎 (1938年頃)

大阪工業大学の門標 大宮キャンパス (1957年頃)

大阪工業大学は「都市型キャンパス」の先駆け。

大阪市北区豊崎から樋之口、淀川を挟んだ南方へと移転し、現在の宮キャンパスにいたる移転の歴史は、まさに都市の拡大と交通網(市電)の拡充にともなって実施されており、いま注目されている「都市型キャンパス」の先駆けだったといえる。



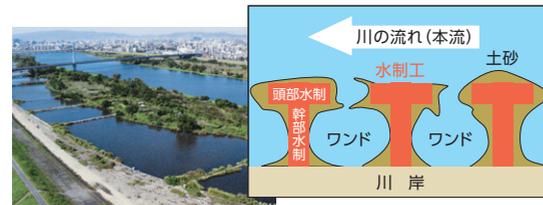
1925年(大正14)年に大きく広がった大阪市(画像提供:大阪市)



出典:大阪歴史博物館所蔵資料
 当時の大阪市電路線図。都市整備による市域の拡張にともない市電の路線も年々拡大していった。写真は大宮町停留所での通学風景。

すぐそばにワンドが広がる大宮キャンパス。

「ワンド」とは川の本流とつながっているが砂州などで切り離され池のような場所のことで、多様な生物のすみかになっている。現在のワンドは淀川の河川工事によってできたものである。淀川流域に立地する大宮キャンパスのあたりには、こうしたワンドが数多く見られ、河川工学の生きた研究題材として注目されている。



ワンドは魚や水中生物の絶好のすみかになっている。
 大宮キャンパス近くに広がる淀川とワンドの風景。

河川改修前後の淀川と校地の変遷



河川工事前の淀川流域。現在の宮キャンパスのあたりは川の右岸だったことが伺える。([「明治前期 関西地誌図集成(柏書房(株))」から引用し加筆])

大学のスタートと拡大(1949~1964)

戦後復興から高度経済成長を迎えたこの時期、開学から学科増設、校舎竣工ラッシュとめざましい発展を遂げた時代でもあった。

1949年(昭和24年)

- 4月 ● 摂南工業大学開学
工学部3学科設置(土木工学科・建築学科・電気工学科各第I部・第II部)
- 10月 ● 摂南工業大学を大阪工業大学に改称

1950年(昭和25年)

- 4月 ● 第I部・第II部機械工学科増設

1953年(昭和28年)

- 4月 ● 旧2号館の第1期工事(西側半分)竣工



1954年(昭和29年)

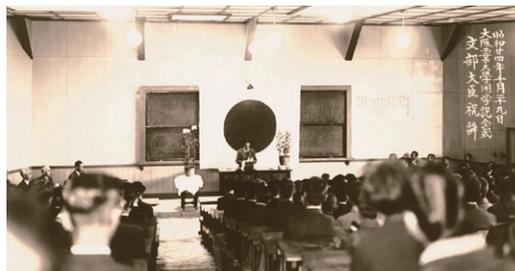
- 8月 ● 旧2号館の第2期工事(東側半分)竣工

1958年(昭和33年)

- 4月 ● 第I部応用化学科増設

「摂南工業大学」から「大阪工業大学」へ

改称の発端は学生たち自らの行動だった。大学に昇格したにもかかわらず校名も同じでは工業専門学校の延長という感が否めない。そう考えた学生側からの運動がきっかけとなり、ついには熱意に動かされて当時の文部省や大学審査委員会を動かした。



大阪工業大学の開学記念式典

1949年10月29日に式典挙行。席上、野田初代学長は「学生諸君が産業界に入った暁には、いたずらに外国技術の模倣追従を事とすることなく、確かに大地に足を踏み締めて現実の要求から我が国独特の産業技術を樹立する様にあってほしい」と述べた。

開学記念文化祭

大学開学を祝い、1949年10月31日と11月1日の2日間にわたって演劇、軽音楽、尺八、弁論大会など全学園を挙げて文化祭が盛大に挙行された。また翌年3月5日と6日には旧制学校を卒業する者に送別記念文化祭も開催された。



土木工学科の測量実習



建築学科の設計製図



電気工学科の実験



機械工学科の溶接実習



応用化学科の定量分析実験



電子工学科の放電管の雑音研究



1960年代の校舎の夜景

大学には働きながら学ぶ学生のために第II部(夜間部)もあり多くの学生が昼夜専門技術の修得に励んだ。

社会の動き

- 1949 ● 中華人民共和国建国
● 湯川秀樹がノーベル物理学賞を受賞(日本人初)
- 1958 ● 関門国道トンネル(海底トンネル:3.461m)開通
● 国鉄特急「こだま」東京~大阪間6時間50分運転
● 1万円札(聖徳太子)発行
- 1960 ● 新日米安保条約行政協定調印
● 政府 国民所得倍増計画決定
- 1963 ● 文部省中央教育審議会 第19回答申「大学教育の改善について」
● 名神高速道路尼崎~栗東間部分開業(1965年全通)
● 日米間衛星テレビ中継実験成功
- 1964 ● 東海道新幹線開通
● 東京オリンピック開催

1959年(昭和34年)

- 4月 ● 第I部電子工学科増設
- 6月 ● 旧3号館竣工

1960年(昭和35年)

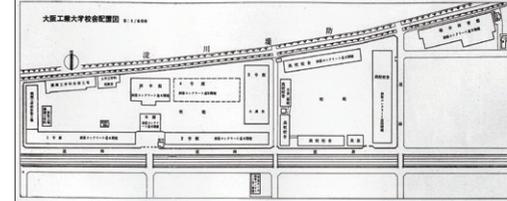
- 3月 ● 本館(旧6号館)竣工
- 4月 ● 第II部応用化学科増設

1962年(昭和37年)

- 4月 ● 第I部・第II部工業経営学科、第II部電子工学科増設

1964年(昭和39年)

- 4月 ● 工学専攻科増設
● 4号館竣工
- 5月 ● 学生寮「研修寮」竣工



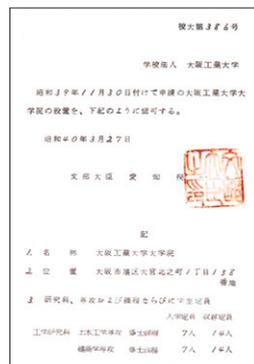
1964年頃の大宮校地航空写真と校舎配置図

大学院設立と教育体制の拡充(1965~1981)

学生運動に月面着陸、社会が大きく変革を迎えていた時代、
大阪工業大学も大学院設立をはじめ新しい教育体制へと踏み出した。

1965年(昭和40年)

- 4月 ●大学院工学研究科修士課程開設
土木工学専攻・建築学専攻・電気工学専攻・機械工学専攻・応用化学専攻
- 7月 ●5号館竣工



大阪工業大学大学院 工学研究科開設

1965年、高度技術者・研究者の養成機関として大学院を開設。その2年後には博士課程を開設。新制大学で博士課程を擁するところは全国でも数が少なかった。



正面左側の門柱には大学院の名が記された



大学院修了式の様子

枚方校地八幡実験場 研究実験施設

大学院開設にともない、工学部の教育内容をさらに充実するため、枚方校地に八幡実験場を設け、手狭な大阪市内ではできない大型の実験設備を設置した。

爆破実験



プレストレスト合成ばりの載荷実験

1967年(昭和42年)

- 4月 ●大学院工学研究科修士課程工業経営学専攻増設
- 大学院工学研究科博士課程開設
土木工学専攻・建築学専攻・電気工学専攻・機械工学専攻

1968年(昭和43年)

- 7月 ●枚方第1校地に八幡実験場研究実験施設開設



教育環境の整備

体育館は創立50周年記念事業の一環として建設された。総合体育館は建築面積2,900㎡、延面積5,500㎡で随所に近代的設備を施し、規模・設備とも第一級の建物である。第2体育館は建築面積1,700㎡、延面積1,800㎡で屋上には50m8コースの公認プールが設けられている。

また、図書館は約43万冊の収容能力を持ち、随所に人間工学的な配慮が施され、学術情報センターにふさわしい雰囲気を漂わせている。



総合体育館

第2体育館



図書館(8号館)



玄関ホールレリーフ(會田雄亮氏作)

社会の動き

- 1966 ●「いざなぎ景気」が始まる(～1970)
- 1967 ●ヨーロッパ共同体(EC)発足
●東南アジア諸国連合(ASEAN)結成
- 1969 ●米 アポロ11号月面着陸成功 人類初めて月を踏む
- 1970 ●日本万国博覧会(大阪万博)開催
- 1971 ●沖縄返還協定に調印
- 1972 ●日中国交正常化
- 1973 ●外国為替 円変動相場制に移行
●第1次石油ショック
- 1974 ●高校への進学率が90%超す
- 1975 ●ベトナム戦争終結
- 1977 ●宇宙開発事業団が初の静止気象衛星「ひまわり」を米ケープカナベラルから打ち上げ
- 1978 ●日中平和友好条約調印
- 1979 ●国公立大学の共通1次学力試験 初めて実施
●第2次石油ショック

1975年(昭和50年)

- 4月 ●大学院で工学博士第1号誕生

1976年(昭和51年)

- 3月 ●新本館(現7号館)竣工
- 4月 ●第I部・第II部工業経営学学科を経営工学科、同大学院工業経営学専攻を経営工学専攻に名称変更

1977年(昭和52年)

- 4月 ●大学院工学研究科博士課程応用化学専攻増設

1978年(昭和53年)

- 3月 ●総合体育館・第2体育館・第2部室センター竣工

1980年(昭和55年)

- 2月 ●機械実習工場、大宮工場を増築整備
- 5月 ●図書館(8号館)竣工



1981年頃の大宮校地

教育環境や施設、設備の充実(1982~1995)

パソコンの普及や技術革新がめざましかった時代、
学内オンラインの導入や実験、研究施設の開設が相次いだ。

1982年(昭和57年)

- 4月 ●漢字情報システムを採用した図書館総合情報管理システムならびに学籍情報システムを相次いで独自開発



図書館の
検索端末機

図書館総合情報管理システムを稼働。圖書の発注から貸出返却検索までが可能になった。

1984年(昭和59年)

- 4月 ●TSS端末100台を計算センターに導入

TSS端末装置の導入

高度化する情報化社会に対応し情報処理技術の基礎を効率よく体得させるため設置。TSS処理用ソフトウェアにマガル大(カナダ)が開発した「MUSIC」を導入(わが国初)。計算センターには、スーパーコンピュータや大型汎用コンピュータを順次導入し、これらの端末機を介して教育・研究に付随する科学技術計算など広範囲に利用された。



1985年(昭和60年)

- 1月 ●CADシステム導入
- 4月 ●大阪工業大学後援会発足

1986年(昭和61年)

- 4月 ●学生証を磁気カード化する
- 6月 ●大学間でデータのやりとりをするBITNETで西日本の拠点となる
- 12月 ●構造実験センター開設



水理実験センター



高電圧実験センター

構造実験センターから 八幡工学実験場へ

土木・建築の分野での構造物の大型化や複合・合成などの多様化が進む中、疲労限界や耐震性などを小型模型による試験から類推することは困難で、実物大の試験体を載荷できる施設として日本有数の規模を誇る構造実験センターが1986年に開設された。1989年には水理実験センターと高電圧実験センターを加え、「八幡工学実験場」となった。このなかでも構造実験センターは学生の教育・研究にとどまらず、産・官・学共同研究や委託研究の場として、現在に至るまで広く利用されている。

CAD研究センター

1987年大宮7号館に開設。米国CV社製の大型CADシステムを設置して全学科にわたる学生が卒業研究に活用するなど、既存の学科の枠を超えた全学的な研究が行われた。



新材料研究センター

「ナノ材料マイクロデバイス研究センター」の前身として、大宮東校地に開設した。以後、本学の材料・物性・デバイス開発分野の教育・研究拠点として大きな成果を挙げた。



世界最大級の自走式輪荷重移動載荷装置

大型航空機クラスの大きな輪荷重載荷がシミュレートできる世界最大級の自走式輪荷重移動載荷装置が構造実験センター(現八幡工学実験場)に完成。

社会の動き

- 1982 ●東北新幹線(大宮～盛岡) 暫定開業
- 1983 ●東京ディズニーランド開園
- 1984 ●NHK衛星テレビ放送開始
- 1985 ●科学万博「つくば'85」開催
●阪神タイガース初の日本一
- 1988 ●青函トンネルが開通し、JR北海道津軽海峡線開業
●瀬戸大橋が開通し、JR四国本四備讃線開業
- 1991 ●文部省中央教育審議会第29回答申「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」
- 1992 ●東海道新幹線「のぞみ」が運転開始
●PKO法案成立 カンボジアに自衛隊を派遣
- 1994 ●日本人女性初の宇宙飛行士向井千秋さんがスペースシャトルで宇宙へ
●関西国際空港が開港
- 1995 ●阪神・淡路大震災

1987年(昭和62年)

- 4月 ●CAD研究センター開設
- 6月 ●新材料研究センター開設

1988年(昭和63年)

- 6月 ●構造実験センターに世界最大級の自走式輪荷重移動載荷装置が稼働

1989年(平成元年)

- 4月 ●八幡工学実験場開設
- 12月 ●9号館竣工

1990年(平成2年)

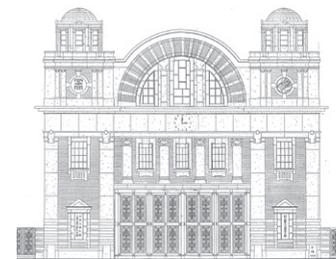
- 4月 ●EWS(エンジニアリングワークステーション)導入

1991年(平成3年)

- 4月 ●大学院工学研究科博士課程経営工学専攻増設(2014年度から学生募集を停止)

1992年(平成4年)

- 7月 ●現6号館竣工
- 8月 ●大宮校地正門に片岡安メモリアルゲートが完成



単科大学からの脱皮(1996~2005)

インターネットの登場など高度情報化時代が到来。
そうした時代に対応した学部や学科の新設が求められた。

1996年(平成8年)

- 1月 ●情報科学部1号館竣工
- 4月 ●情報科学部(情報処理科、情報システム学科)開設



情報科学部情報処理演習室・コンピュータ室



学生が情報科学のダイナミズムを体感できるよう全国でも屈指の高度な施設・設備を導入。



情報科学部バーチャルリアリティ(VR)室

最新のグラフィックコンピュータや100インチのプロジェクタなどを設置。

1997年(平成9年)

- 4月 ●大学院工学研究科の電気工学専攻を電気電子工学専攻に名称変更

2000年(平成12年)

- 4月 ●工学部に昼夜間開講導入
- 大学院情報科学研究科(情報科学専攻)修士課程開設
- 7月 ●新2号館竣工



図書館 枚方分館

最新の情報科学・コンピュータ関連の専門図書などが揃う情報科学部の図書館。



知的財産専門職大学院開設

関西工学専修学校の初代校長である片岡安が実施設計を手がけた大阪市中央公会堂で、知的財産専門職大学院開設記念シンポジウムが開かれた。

JABEE

JABEEとは1999年に設立された、技術系学協会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体。

大阪工業大学は現在「工学部都市デザイン工学科」「工学部機械工学科」「情報科学部」でJABEEの認定を受けた教育プログラムを実施している。



社会の動き

- 1996 ●堺市の小中学校でO157による集団食中毒・全国に広がる
- 1997 ●消費税の税率が5%にアップ
- 1998 ●冬季五輪長野大会 日本は史上最多のメダル獲得
- インドが核実験 パキスタンも初の地下核実験
- 2001 ●アメリカ同時多発テロ事件が発生
- 2002 ●欧州単一通貨「ユーロ」が流通開始
- FIFA日韓ワールドカップ開催

2002年(平成14年)

- 3月 ●新1号館竣工
- 4月 ●情報科学部に情報メディア学科増設、情報処理科を情報科学科に名称変更
- 工学部の土木工学科を都市デザイン工学科に、電気工学科を電気電子システム工学科に、電子工学科を電子情報通信工学科に名称変更
- 大学院に情報科学研究科(情報科学専攻)博士課程を増設、工学研究科の土木工学専攻を都市デザイン工学専攻に名称変更
- 図書館(本館・枚方分館)を一般市民に開放
- 7月 ●情報科学部2号館竣工

2003年(平成15年)

- 4月 ●知的財産学部(知的財産学科)開設(日本初)



2004年(平成16年)

- 4月 ●リエゾンセンター開設

2005年(平成17年)

- 4月 ●専門職大学院知的財産研究科(知的財産専攻)開設
- 11月 ●情報科学部、工学部都市デザイン工学科がJABEEを受審(2006年5月課程認定)

テクノロジー新時代の到来(2006~2012)

新興国の台頭により、国内製造業の空洞化が懸念される中、新技術の創造、次世代テクノロジーへ挑戦できる人材育成が求められている。

2006年(平成18年)

- 4月 ●工学部に環境工学科、空間デザイン学科、生体医工学科の3学科を増設、経営工学科を技術マネジメント学科に名称変更(生体医工学科、技術マネジメント学科は2010年度から学生募集を停止)
- 研究拠点として「ナノ材料マイクロデバイス研究センター」、「ヒューマンロボティクス研究開発センター」、「ものづくりマネジメントセンター」開設
- 7月 ●文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)(淀川学—身近な環境から持続可能な社会を実現する取組—)」が採択

2007年(平成19年)

- 4月 ●大学院に工学研究科(環境工学専攻、生体医工学専攻)博士課程増設、情報科学部に情報ネットワーク学科増設、情報科学学科をコンピュータ科学科に名称変更
- 7月 ●文部科学省の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に「製造現場で活躍できる高度プロフェッショナルの養成を目指した教育プログラムの開発」が採択

2008年(平成20年)

- 2月 ●10号館竣工
- 4月 ●学生証をICカード化する
- 5月 ●ものづくりセンター(愛称:モノラボ)開設

ものづくりマネジメントセンター開設

経済産業省「産学連携製造中核人材育成事業」の一環として、ものづくり現場をマネジメントできる人材育成を目的に開設。



モノラボ開設

学部・学科を超えたプロジェクトを通じて、ものづくりの喜びや社会に役立つ体験を重ねていくことを目的に開設。開所式では、三菱重工業(株)からコミュニケーションロボットwakamaruを題材に「ものづくり」の講演があった。そのために駆けつけたwakamaruもテープカットに参加した。



10号館



淀ビスタ(上)・ルラーシュ(下)

快適な教育環境を整備

10号館新築のほか、6号館の上層階を学生らが提案した設計プランを基にリニューアルし「淀ビスタ」や「ルラーシュ」がオープン



八幡工学実験場に日本最大級の耐火実験棟が完成

産官学一体となった共同研究を行う大規模実験場「八幡工学実験場」に2009年、日本で最大級となる耐火実験棟が完成。



Language Learning Center (LLC)の開設

神田外語大学と連携協定を結び、同大学のノウハウを活用して英語の自立学習をサポートし実践的な英語力を涵養するための施設 LLC を開設。

社会の動き

- 2007 ●郵政民営化(JPグループ発足)
 - 月探査衛星「かぐや」打ち上げ
- 2008 ●北京オリンピック開催
 - 日経平均株価がバブル崩壊後最安値を更新 6994円90銭
 - 米大統領選挙で民主党のオバマ氏勝利
 - 文部科学省中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」
- 2009 ●第45回総選挙 民主党圧勝 政権交代
- 2010 ●金星探査機「あかつき」を載せたH2A打ち上げ成功
 - 小惑星探査機「はやぶさ」が小惑星イトカワから帰還
- 2011 ●東日本大震災 マグニチュード9.0
 - 次世代スーパーコンピュータ「京」がLINPACKベンチマーク首位、TOP500リストの首位を獲得 設置されている最寄駅も「京コンピュータ前駅」(ポートアイランド線)に改称
- 2012 ●ロンドンオリンピック開催
 - 山中伸弥教授がノーベル生理学・医学賞受賞

2009年(平成21年)

- 3月 ●八幡工学実験場に日本最大級の耐火実験棟が完成
- 7月 ●文部科学省の「学生支援プログラム」に「就職模擬試験、就職対策講座の実施による就職支援の充実」が採択
- 9月 ●文部科学省の「大学教育推進プログラム」に「SE能力開発のためのスパイラル型情報教育」が採択

2010年(平成22年)

- 1月 ●エコキャンパス推進事業として「ソーラー発電システム」を設置
- 4月 ●工学部にロボット工学科、生命工学科、大学院工学研究科空間デザイン学専攻に博士課程増設

2011年(平成23年)

- 2月 ●第1部室センター竣工
- 12月 ●学生たちの新たな憩いの場としてGrowth Garden竣工

2012年(平成24年)

- 1月 ●ライブラリーラウンジなどを備えたChast竣工
- 4月 ●英語の自立学習をサポートするランゲージラーニングセンター(LLC)開設
- 10月 ●コミュニケーションマーク、タグライン、ロゴタイプを制定

建学100年の使命(2013~)

戦後、新制大学として発展を続けてきた大阪工業大学。2019年に大学として70周年、2022年10月30日には学園創立100周年を迎えた。学生による海外大学との国際PBLをはじめ、国際社会でグローバルに活躍できる人材の育成を目指す。

2013年(平成25年)

- 4月 ●うめきたナレッジセンターを
グランフロント大阪に開設
(2017年3月まで)

2014年(平成26年)

- 3月 ●梅田キャンパス着工
●OITスタジアムの開設
- 5月 ●常翔歴史館開館
- 6月 ●国際学生技術研修協会
(IAESTE)から研修生を受
入れ(関西の大学初)
- 7月 ●ロボティクス&デザインセン
ター開設

2015年(平成27年)

- 10月 ●モノラボアネックス開設

2016年(平成28年)

- 7月 ●文部科学省の大学教育再生加
速プログラム「高大接続改革
推進事業」-テーマV 卒業時
における質保証の取組の強化
-に採択
- 10月 ●梅田キャンパス OIT梅田タ
ワー竣工

常翔歴史館開館

創設から1世紀近くにいたる自校の歴史を関係者らが認識し、理解を深めるために学園と各学校にゆかりのあるものを中心に資料等を収集。所蔵資料等の一部は常設展示室で公開し、またテーマに沿った企画展を随時開催。これらは、在学生の自校教育としての役割を担っている。



モノラボアネックス開設

学生プロジェクト活動の拠点となる施設「モノラボアネックス」を開設。ものづくりを通して社会人基礎力を養い、社会に貢献できる人材育成の場となっている。



大学教育再生加速プログラム

大学教育再生加速プログラムに採択

大学教育再生加速プログラム(AP)「高大接続改革推進事業」-テーマV 卒業時における質保証の取組の強化-に採択された。同プログラムは、国として進めるべき大学教育改革を一層推進するため、教育再生実行会議等で示された新たな方向性に合致した、先進的な取組を実施する大学を支援することを目的としたプログラムである。



ロボティクス&デザイン工学部誕生

2022年に迎えた学校法人常翔学園創立100周年に向けた「学園のシンボリック拠点」として梅田キャンパスが誕生。大阪工業大学が未来を担う新しい知を世界へ発信する場所として、ロボティクス&デザイン工学部(および同大学院研究科)を新設。



文部科学省の「平成29年度 私立大学研究ブランディング事業(タイプA:社会展開型)」に本学の「地域産業支援プラットフォーム」が選定された。タイプAは、地域の経済・社会、雇用、文化の発展や特定の分野の発展・深化に寄与する研究:特定の地域あるいは分野における、地域の資源活用、産業の振興・観光資源の発掘・文化の発展への寄与、企業や雇用の創出等を目的とする。



大規模実証実験施設「DXフィールド」の誕生

2025年3月、情報技術に関するさまざまな実験・実証が可能な施設「DXフィールド」が枚方キャンパスに誕生。同年10月には、経済産業省の「J-Innovation HUB 地域オープンイノベーション拠点選抜制度」の地域貢献型イノベーション拠点に選抜されました。

社会の動き

- 2013 ●富士山が世界文化遺産に決定
- 2014 ●赤崎勇教授、天野浩教授、中村修二教授がノーベル物理学賞受賞
●富岡製糸場が世界文化遺産に決定
- 2015 ●「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に決定
●大村智教授がノーベル生理学・医学賞、梶田隆章教授がノーベル物理学賞受賞
- 2016 ●熊本地震
●大隅良典栄誉教授がノーベル生理学・医学賞受賞
- 2017 ●カズオ・イシグロ氏がノーベル文学賞受賞
- 2018 ●本庶佑教授がノーベル生理学・医学賞受賞
- 2019 ●元号が「令和」に改元
●ラグビーワールドカップ日本大会が開幕
- 2020 ●新型コロナウイルスの感染が世界中に広がる
- 2021 ●東京オリンピック・パラリンピック開催
- 2022 ●ロシアがウクライナを侵攻
- 2023 ●新型コロナウイルス「5類」に引き下げ
- 2024 ●日本銀行、20年ぶりに新紙幣発行

2017年(平成29年)

- 4月 ●ロボティクス&デザイン工学部(ロボット工学科、システムデザイン工学科、空間デザイン学科)開設
●大学院工学研究科を建築・都市デザイン工学専攻、電気電子・機械工学専攻、化学・環境・生命工学専攻博士課程に再編
●大学院ロボティクス&デザイン工学研究科(ロボティクス&デザイン工学専攻)博士課程を開設
- 11月 ●文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業(タイプA:社会展開型)」に選定

2019年(平成31年・令和元年)

- 3月 ●新3号館竣工
- 4月 ●工学部電子情報通信工学科を電子情報システム工学科に、情報科学部コンピュータ科学科を情報知能学科に、情報ネットワーク工学科をネットワークデザイン学科に名称変更

2020年(令和2年)

- 7月 ●新4号館竣工

2021年(令和3年)

- 4月 ●情報科学部データサイエンス学科増設
●バイオものづくりラボ開設

2022年(令和4年)

- 8月 ●第2部室センター竣工

2023年(令和5年)

- 5月 ●新5号館竣工

2025年(令和7年)

- 3月 ●DXフィールド開設
- 4月 ●情報科学部実世界情報学科増設

ここにしかないもの

大学歌 作詞 竹友藻風/作曲 信時潔

- 一、産業の意図たくましく
都の力あつまりて
築き上げたる大学を
仰げ雲霧晴れわたる
生駒の山の空高し
- 二、新生の道ひらけ行く
国土の命みなぎりて
望ゆたけき大学を
歌え広野に大淀の
堤をあらふ水清し

逍遙歌 作詞 久保宇市/作曲 須藤五郎

- 一、青雲もとの下 水清く
緑風そよぐ 淀の岸
春秋色は変れども
尽きせぬ流れ 吾が心
- 二、暎霞ようあせみ 果しなき
思はとうひに坡塘さまよ彷徨へば
吾が真心に 吹く風は
来きたる使命を 奏かなでたり
- 三、夕陽せきやう 西に沈むとき
蝸角かかくの競きそひ打捨てて
一途の道を 行き行けば
西あかねの空に 雲しずか
- 四、北斗の星を 仰ぎ見て
吾等が理想 今あらた
やがて来きたらん その日には
関南となんの翼 打振らん

学生歌

- 一、永久とわの流の淀堤ていの
ほとりに立てる殿堂は
吾が工大の偉容なり
学まなびの自由独立に
あこがれ集う青春の
花らんまんと今開く
見よ麗うるわしの此まなびやの学園
- 二、理想をひめし若人が
四年よとせの春をちぎりては
丈余うしおの潮にさおさして
科学まことの真理さぐらんと
共に誓いし健児等が
今雄々しくも振り立つ
見よ熱烈の此の意気を
- 三、摂津の東北白む時
吾まなびやが学園は躍動す
ああ大なる精魂よ
これぞ吾等が姿なり
雄おたけび叫せんが高らかに
誇たかりに生なきんときほひ立つ
見よたくましく此の意気を

応援歌 作詞 西条八十/作曲 古賀政男

- 一、青春の血は燃えて仰ぐ太陽
新しき日本を築く高き知性を
あつめここに火を吐く力
力、力、踊り立つ金色のアポロ、工大!
見よ、この力の往くところ
烈風の葉を捲くごとく
はむこう者無きを!
われら、われら、意気のアポロ、工大!
- 二、雄大の氣宇満ちて唸る鉄砲
曙あけぼののアジア沸る若き情熱
今こそ溢れ進む力
力、力、雲翔ける必勝てんまの天馬、工大!
見よ、この力の往くところ
日輪の野を燬くごとく
阻はばまん敵なきを!
われら、われら、意気の天馬、工大!

ここにしかないもの

本学には「日本初」や「関西トップ」などナンバーワンがたくさんある。

そして、それに負けないくらい価値のあるオンリーワンもある。

ここからは、そんな大阪工業大学の「ここにしかないもの」をまとめて紹介していくことにしよう。



グローバルに活躍する専門職業人

大阪工業大学は、社会の変化に応え、常に教育改善に取り組んでいる。教育面では、「PBL教育」の充実を図るとともに、グローバル人材の育成をめざし、海外有力大学との連携や研究・教育交流を推進している。2013年度より独自の国際交流プログラムが動き出した。



Step2: 国際PBLプログラム(主に2年生～3年生)

海外の大学を活動の拠点にPBLを実施するプログラム。現地学生と混成チームをつくり、1週間程度、共通の課題に取り組む。海外協定校を中心に国立台北科技大学、国立台湾科技大学、タマサート大学などと実施。

Step4: 海外研究支援プログラム(大学院内部進学者～大学院生)

本学大学院に進学が確定している学部生および大学院生の中から選抜し、海外の大学・研究機関に一定期間(1ヵ月以上)派遣。渡航費と研究活動の経費の一部を大学が支援する。

国際交流
 詳細は本学公式WEBサイトをご覧ください
 URL: <https://www.oit.ac.jp/international/index.html>

Language Learning Center (LLC)
 Welcome to the Language Learning Center!
 The Language Learning Center [LLC] is here to help you learn English! The LLC staff come from all over the world and we are very friendly. In the LLC you can access many different kinds of language learning materials such as textbooks, movies, games and magazines. You can make an appointment to practice speaking English with one of the LLC teachers and you can also get help to make a personal language learning plan! You can also receive English language learning advice in Japanese. Anyone can use the LLC so please come and have a look. We will be happy to show you around.

LLC
 詳細は本学公式WEBサイトをご覧ください
 URL: <https://www.oit.ac.jp/international/llc-oit.html>

海外交流協定締結大学等一覧

(2025年11月現在)

アジア		中近東	
中国	香港伍倫貢學院 南京工業大学 江南大学 北京科技大学 大田大学校	サウジアラビア	キング・アブドゥルアズィーズ大学
韓国	仁済大学校 国民大学校 中央大学校 嘉泉大学校 漢陽大学校 ERICAキャンパス	オセアニア	オーストラリア クイーンズランド工科大学 スウィンバン工科大学
モンゴル	モンゴル工業技術大学 モンゴルコーセン技術カレッジ	ヨーロッパ	フィンランド タンペレ大学 ユヴァスキュラ大学 ウプサラ大学 スタヴァンゲル大学
インド	マニパル大学	スウェーデン	ノルウェー
インドネシア	パラカラヤ大学 ウイダヤ・マンダラ・カトリック大学 ムラワルマン大学 バクリ大学 ハサヌディン大学 セプルーノペンパー工科大学	ポーランド	ヴロツワフ工科大学
マレーシア	マレーシア工科大学 マレーシアサバ大学 ペトロナス工科大学 マレーシアサイエンス大学	オーストリア	ウィーン工科大学
フィリピン	サンホセレコレトス大学	ドイツ	ヴッパータール大学
台湾	国立虎尾科技大学 国立高雄科技大学 国立台北科技大学 国立台湾科技大学 国立清華大学 国立雲林科技大学 南台科技大学	オランダ	ミュンヘン工科大学 ミュンヘン防衛大学 HAWK応用科学芸術大学 デルフト工科大学 アイントホーフェン工科大学
シンガポール	シンガポール工科大学	フランス	パリ・デジタルイノベーション大学院
タイ	タマサート大学シリントーン国際工学部 タマサート大学 泰日工業大学 チュラーロンコーン大学 ラジャマンガラ工科大学 マヒドン大学	スペイン	ボルドー大学 モンパリエ大学 ポリテクモンペリエ ENTPE パリ・ヴァル・ドゥ・セーヌ国立高等建築学校 ストラスブル大学国際的財産研究センター パリ建築大学
ベトナム	ダナン工科大学 カントー大学	トルコ	サラマンカ大学
		イタリア	マドリッド工科大学 オジェギン大学 トリノ工科大学
		北米	アメリカ
		中南米	アンジェロ州立大学 クレムソン大学 ライス大学 サンノゼ州立大学 ジョージア工科大学 ネバタ大学リノ校
		アフリカ	サンフランシスコ州立大学 OCAD University レジャイナ大学
		メキシコ	グアナファト大学
		セネガル	ジガンシール大学

地域連携

大学で学んでいることをもとに、地域社会とコミュニケーションを取りながら、抱える課題・問題に取り組み、さまざまな提案や活動を実践していくことができるのも本学ならではのこと。建学の精神にもあるとおり地域社会との連携を深め、複数の自治体等と連携協定を結び、さまざまな活動を展開している。

運営方針と行動計画

運営方針

大阪工業大学は大学の3つの使命である「教育」「研究」「社会貢献」を果たすため、地域社会の一員としての自覚のうえに社会との連携強化を図りながら、本学の専門性を生かした知的・人的資源を活用することで、地域社会の発展に寄与する。

行動計画

主に自治体、教育団体、公共団体等との連携により次の事業を推進する。

- ◇青少年育成事業(主に理科教育)
- ◇地域住民向け公開講座や体験教室など生涯教育事業
- ◇まちづくり、賑わい創出事業(地域行事参画、地元商店街活性化など)
- ◇行政活動に対する助言・提言(自治体の委員就任を含む)
- ◇遠隔過疎地域活性化事業および災害復旧活動
- ◇その他、社会貢献、社会連携に関する事業

産官学連携

『創造』『知識』が無限に広がる最先端の研究施設として、工学の広範な分野を網羅する大学院工学研究科・ロボティクス&デザイン工学研究科・情報科学研究科をベースに研究センター・教育施設を設置し、最先端の研究開発や学術的・実用的な研究開発に取り組んでいる。併せて、大学院知的財産研究科による知的財産マネジメント・システムを有機的協働体として組織し、産業界・公的機関等との広範な連携のもと、科学技術イノベーションの推進と知的創造サイクルの構築、新たな知的財産の創造を目指している。

また、大阪商工会議所や大阪産業技術研究所、金融機関などと連携して各種セミナーや人材育成事業を行っている。

社会・地域連携

詳細は本学公式 WEB サイトをご覧ください
URL : <https://www.oit.ac.jp/oit/cooperation/index.html>



産官学連携・研究支援

詳細は本学公式 WEB サイトをご覧ください
URL : <https://www.research.oit.ac.jp/>



淀川学

大阪工業大学には「淀川学」という特長的なカリキュラムがある。

技術者は現在の地球に生きる人々のくらしを安全・安心・快適なものとするために、日夜努力している。同時に、先の世代もこのような文化的・経済的に水準の高い生活が送れるように持続可能な開発を実現することも期待されている。これらを両立して行くためには地球環境に配慮した技術開発・ものづくりを行わなければならない。また、ICTやAIなどの技術開発により、Society 5.0が提唱された現代社会では、技術の招く未来に対する視点の広さと深さ、そして倫理観が強く求められている。

「淀川学」は、教室から望むことができる淀川を題材として多様な観点で淀川や淀川流域を捉えることで自然と人とのかかわり合いを学び、環境共生の意識を育むカリキュラムである。淀川という身近な環境を私たちがどのように利用し、影響を受け、現在があるのか、さらにはどのような未来を作っていくのかを、各専門学科との関わりも含めて、地学、生物学、科学技術、社会学、歴史学、環境倫理学の分野から学ぶ。多様な分野が関係しながら社会が形成されていることを学び、視野の広い技術者を育てる。「淀川学」は単に河川や流域の理解にとどまらず、世界に向けた視点を育むベースとなり、サステナビリティの実践につながる。

2025年度には、大阪・関西万博において「淀川学」にもとづく次世代の持続可能な開発を目的とした人材育成」をテーマに、この授業の実践内容を発表・展示した。



数理・データサイエンス・AI教育プログラム「OIT MDASH(リテラシー)」

科学技術イノベーションの活用を通じた「人間中心の社会(Society5.0)」の実現に向けて、近年はあらゆる分野でデータ利活用が必須となっており、すべての大学で、リテラシーレベルの「数理・データサイエンス・AI教育」の導入が進められている。

本学でも、数理科学への関心を高め、データ利活用に関わる基礎的能力を育成することを目的として、情報科学部で検討した基本プログラムを各学部のカリキュラムに応用的に組み込みながら、全学的に「数理・データサイエンス・AI教育/OIT MDASH(リテラシー)」を開講している。

※文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定されています。【認定の有効期限:2028(令和10)年3月31日まで】

OIT MDASH(リテラシー)

詳細は本学公式 WEB サイトをご覧ください。



URL : https://www.oit.ac.jp/oit/about/educational_program.html

世界で最も影響力のある研究者トップ2%に本学の教員4人が選出

2025年9月19日、スタンフォード大学とエルゼビアが世界のトップ2%の科学者を特定する包括的なリスト「標準化された引用指標に基づく科学者データベース」を更新・発表し、本学から6人の教員が選出された。



学術書誌データベースであるScopusから引用されたこのリストは、22の科学分野と174のサブ分野に分類されており、8月1日時点で少なくとも5つの論文を発表している研究者を対象としている。

本学公式 WEB サイト

トピックスをご覧ください
URL : <https://www.oit.ac.jp/news/topics/r6p050000036ob.html>



主な研究・教育施設

ナノ材料マイクロデバイス研究センター



約350m²のクリーンルームとハイテク装置が設置されている工学部付設の教育・研究施設。特に、先端半導体の研究や人材育成に力をいれている。

八幡工学実験場



「構造実験棟」は、実物あるいは実物大モデルを用いた大規模な実験ができる西日本最大級の施設である。

モノラボ(ものづくりセンター)



切削加工ができる「精密加工室」、電子回路や設計図面の制作ができる「CAD/CAE室」などがあり、プロジェクト活動の拠点にもなっている。

モノラボANNEX



ソーラーカーやロボットなど、さまざまな学生プロジェクトの活動拠点。ミーティングや部品製作、組み立てなどを行っている。

イノベーションデザイン教育研究センター(CIDRe)



産官学連携および本学における複数の学問分野の融合により、企業や社会が抱える課題の解決を図ることを目的とした「全学的なイノベーション教育・研究を支援する拠点」である。

デジタルアーカイブセンター



人の動きを測定する(モーションキャプチャ)装置や3次元形状を取り組む3次元非接触形状入力装置、CG作成用端末などを使って、デジタルアーカイブに関する研究に取り組んでいる。

DXフィールド



DX(デジタルトランスフォーメーション:ITの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる)の実現に必要なAI、IoT、CPS、データサイエンス、ICT、仮想空間技術、サイバーセキュリティなどの多種多様なデジタル技術に関する実証実験を行う拠点である。

天候に左右されずに多数のドローンの飛行やロボットが動き回ることができる屋内実験空間となっており、物流、農業、防災分野などにおけるAIやソフトウェアで制御されたドローンやロボットの社会応用実験、大規模なXRシステムの研究開発を可能にする。

研究・教育施設

詳細は本学公式WEBサイトをご覧ください



URL: <https://www.oit.ac.jp/oit/facility/index.html>

学生の自主的な活動

学びの場は教室だけではない。自らの夢や目標に向かって自分を磨く。本学ならではの学びの一つに学生が主体となって取り組むプロジェクト活動や課外活動がある。学部や学科の枠を超えて、仲間たちと考え、切磋琢磨し技術力を高め、地域社会との関係を深め、外部の発想にも刺激を受けて、それぞれの活動に取り組んでいる。

モノラボプロジェクト



人力飛行機



ロボット



学生フォーミュラ



ソーラーカー

大宮キャンパス・ものづくりセンターの別館「モノラボANNEX」を拠点に「人力飛行機」「ロボット」「学生フォーミュラ」「ソーラーカー」の4団体が活動している。学年、研究室、学科の枠を超え、それぞれが一つの目標に向かってものづくりや研究開発に取り組んでいる。

モノラボプロジェクト

詳細は本学公式WEBサイトをご覧ください

<https://www.oit.ac.jp/oit/facility/monolab/index.html>



クラブ&サークル

現在、約90団体が活動している。学園祭実行委員会(各キャンパス)、応援団、国際友好部・留学生友好会などの活動もある。

クラブ&サークル

詳細は本学公式WEBサイトをご覧ください

URL: <https://www.oit.ac.jp/gakusei/club/index.html>



大阪工業大学のシンボルについて

本学の歴史と伝統、建学の精神を引き継ぎ、将来にわたって発展を続けるために、学園創立90周年に当たる2012年に「人にも地球にもやさしく、夢をカタチにする専門職業人を育成し、幅広く社会とつながる大学」という大学像を広く社会につたえるコミュニケーションマーク・タグライン等を制定した。



コミュニケーションマーク・カラー

色鮮やかなシアンで工業大学の「工」を表現し、正方形を取り巻く空間が社会を、正方形がテクノロジー分野を表しています。そしてその中に夢をカタチにする専門職業人を育成するOIT (Osaka Institute of Technology) をかたどり、社会との一体感を表現している。

大阪の地で100年以上にわたって、社会の各分野で活躍する有為な人材育成に努めてきた歴史や伝統と、社会に絶えず発信していく「力強さ」「先進性」を感じさせる。

マークのカラー(シアン)には、水の青をセレクトし、淀川から世界へ、川の流れから世界の海原へというグローバルな発想とともに「人にも地球にもやさしい」姿を表している。

タグライン 「みらいをつくる つたえる まもる。」

多くの専門職業人を世に送り出し、新しいライフスタイルを技術面から支え「夢をカタチに」することができる「人」を育ててきた本学の新たな大学像を、シンプルかつダイレクトに表現している。

スクールカラー

スクールカラー(名称:大阪工大ブルー)の「紺青(こんじょう)色」は、日本の長い歴史の中で生まれた伝統色で、専門職業人の育成に長年努めてきた本学の歴史と伝統を表現している。〔印刷物:C100%+M78%+Y21%+K0%〕

校章



大阪工業大学の校章は、校名の略称である「工大」の文字を図案化してつくったものである。

■ 大宮キャンパス [大阪市旭区大宮5-16-1]

工学部

都市デザイン工学科
建築学科
機械工学科
電気電子システム工学科
電子情報システム工学科
応用化学科
環境工学科
生命工学科

大学院工学研究科

建築・都市デザイン工学専攻
電気電子・機械工学専攻
化学・環境・生命工学専攻

知的財産学部

知的財産学科

大学院知的財産研究科

知的財産専攻【専門職大学院】

■ 梅田キャンパス [大阪市北区茶屋町1-45]

ロボティクス&デザイン工学部

ロボット工学科
システムデザイン工学科
空間デザイン学科

大学院ロボティクス&デザイン工学研究科

ロボティクス&デザイン工学専攻

■ 枚方キャンパス [大阪府枚方市北山1-79-1]

情報科学部

データサイエンス学科
実世界情報学科
情報知能学科
情報システム学科
情報メディア学科

大学院情報科学研究科

情報科学専攻

公式ホームページ

URL:<https://www.oit.ac.jp>



UNIVERSAL PASSPORT (UNIPA)

<https://unipa.oit.ac.jp/uprx/>



oit_dikoudai

https://www.instagram.com/oit_daikoudai/



@OIT_pr

https://x.com/OIT_pr



@OITtopics

<https://www.facebook.com/OITtopics>



OITPublicity

<https://www.youtube.com/user/OITPublicity>



THE世界大学ランキング2026にランクイン

2025年10月9日、イギリスの高等教育専門誌「THE (Times Higher Education)」が「THE世界大学ランキング2026」を発表し、本学は1501+にランクインした。

今回、ランキング対象になったのは115の国・地域の2,191校で、前年から99校増えて過去最多。

このランキングは「教育」「研究環境」「研究の質」「産業界」「国際性」の5分野について、17の指標で各大学のスコアを算出、毎年発表している。2026版における日本の大学のランクイン数は前年より4校少ない115校でした。

ランキングや指標の詳細は、THE世界大学ランキング2026の公式WEBサイト参照。

※参考：ランクインした大学<同一ランク帯内は、大学の英語名称のアルファベット順に記載>

26	東京大学
61	京都大学
103	東北大学
151	大阪大学
201~250	名古屋大学
301~350	東京科学大学、九州大学
351~400	北海道大学、筑波大学
501~600	順天堂大学
601~800	広島大学、慶應義塾大学、神戸大学、会津大学
801~1000	和歌山県立医科大学、早稲田大学
1001~1200	千葉大学、藤田医科大学、浜松医科大学、金沢大学、熊本大学、京都府立医科大学、日本医科大学、岡山大学、東京医科大学、横浜市立大学
1201~1500	愛知医科大学、岐阜大学、一橋大学、法政大学、兵庫医科大学、関西医科大学、近畿大学、久留米大学、九州工業大学、長崎大学、名古屋市立大学、新潟大学、大阪公立大学、札幌医科大学、滋賀医科大学、信州大学、東京慈恵会医科大学、電気通信大学、東海大学、徳島大学、東京農工大学、東京理科大学、豊橋技術科学大学、産業医科大学、横浜国立大学
1501+	秋田大学、青山学院大学、千葉工業大学、中部大学、中央大学、獨協医科大学、同志社大学、愛媛大学、群馬大学、弘前大学、茨城大学、香川大学、鹿児島大学、神奈川大学、関西大学、北里大学、高知大学、高知工科大学、工学院大学、関西学院大学、京都工芸繊維大学、明治大学、名城大学、三重大学、室蘭工業大学、長岡技術科学大学、名古屋工業大学、日本大学、お茶の水女子大学、大分大学、岡山理科大学、 大阪工業大学 、大阪医科薬科大学、立教大学、立命館大学、龍谷大学、佐賀大学、埼玉医科大学、埼玉大学、芝浦工業大学、島根大学、静岡大学、上智大学、帝京大学、東邦大学、東京都市大学、東京電機大学、東京都立大学、東京農業大学、東京海洋大学、東京工科大学、鳥取大学、富山県立大学、東洋大学、福井大学、兵庫県立大学、宮崎大学、静岡県立大学、琉球大学、富山大学、山梨大学、宇都宮大学、山形大学、山口大学

